

沢沿いの南谷コースからシチクレ峠を経て百里ヶ岳を目指しました。南谷は、林道ウォークが少し長いですが、ヒヤッとそよ風が気持ちよく、巨木や沢の流れなど自然の庭園を楽しむようでした。途中、熊に出会いました。大声をあげても、沢の水音に消されてか、熊は相変わらずのんびりしていました。慌てて、鈴を鳴らすとすぐに逃げていきました。しばらく行くと、今度はカメに出会いました。南谷コースは、急坂で、いつもと違った味わいがありました。分水嶺に出るとすぐ眺望が素晴らしい所に出て、きれいな景色・空気・やさしい風を満喫しました。頂上までは、ブナ原生林のプロムナードです。百里ヶ岳の最大の魅力は、なんといってもブナ原生林です。いつも癒されます。元気なことに感謝・感謝・するひと時です。予定通り百里ヶ岳山頂には、12:10に到着。昼食後は、木地山峠を目指します。下山のブナ原生林が、また素晴らしい。さすが百里ヶ岳・・・ありがとう。途中、ナツツバキの花があちこちに咲いて、写真を撮ったり、甘い香りを楽しみながらの山歩。ナツエビネの蕾もあり、今年は早いのか・・・と談笑しながらお写真をパチリ。地蔵峠では、お地蔵さんのお家が新しくなっていました。お地蔵さんが少し傾いていらっしやっただので、みなさんでキチンとお座りしていただきました。ここからは北谷コースで、昔の小浜へ出る古道で、変化に富んだ素晴らしいコースですが、滑りやすく注意しながら下山しました。何度も沢渡りがあり緊張しましたが、無事に下山。林道に出る手前にマムシに出会いました。クワバラ・クワバラ・・・。今日も自然に感謝。出会いに感謝の一日でした。

◆**自然観察** (お写真の一部、ご参加のI氏のご協力をえました。ありがとうございます)



ヤマゴボウ※1 誤食防止 熊 I氏撮影 カメ I氏撮影 ナツエビネ マムシ I氏撮影



→→→



こんな状態でした
ツチアケビ
沢の近くでしたので、動物が水を飲みについて触れたのかな。
蕾が散っていました。良い状態でないのが残念。

下見の時、綺麗に咲いていました。

鹿の食害があちこちにありました

ナツツバキ
花が落ちていたり、甘い香りが漂い、蕾や花がたくさんありました

◆**ヤマゴボウ※1 誤食防止のために**

ヤマゴボウは、中国原産の植物と言われ栽培され、ときに野生化しています。漢方では、根を商陸と呼び、利用薬とされます。花が赤みを帯びる日本原産のマルミノヤマゴボウは山地に自生しています。いずれもヨウシュヤマゴボウと同様、有毒植物ですが、なかなか見ることのできない珍しい植物です。

「山ごぼうの漬物」として市販されているは、モリアザミの根やゴボウの細い根を漬けたものです。名前は同じ「山ごぼう」でも全く別の植物です。

◆**歴史探訪** 木地山峠～木地山のコース：小浜への古道。

木地山峠 (福井県小浜市上根来・滋賀県高島市朽木麻生)

福井県小浜市上根来と滋賀県高島市朽木麻生(木地山)を結んだ百里ヶ岳(931m)北稜に位置した標高660mの峠です。小浜市上根来から近江を超える峠としては、この峠より針畑越(根来坂)が有名で、江戸時代、若狭の鯖を京都へ運ぶ商人たちで賑わい、鯖街道と呼ばれていました。

木地山峠は、近江側の峠下に轆轤村があって、膳・盆・銚子・木鉢などを生産したので、この辺りの木地師や近江商人が往来したのでしょう。

木地山は、旧村名を轆轤といい、中世以来明治初期に至るまで長く木地業が盛だった所です。全国の木地師支配のため実施した氏子狩（うじこかり）で、常に、その奉加帳の筆頭に巡回した所です。現在は、この峠は廃道となって久しく、百里ヶ岳への登山者が通過するだけの山道になりなした。

木地山峠という名は、各地に見られます。例えば、加越国境の勝山市北谷町にも「木地山峠」があります。中国山脈の脊巔を挟んで岡山・鳥取・島根の県境にもあります。木地師達は、需要に応じて原木を求め、各地を歩くうち中国地方にまで進出したと考えられてます。椀や盆づくりの原料になる材木が豊富にあれば、腰を据えて定住する場合もあったでしょうが、多くは10年ないし15年で原木を使い果たすと新天地を求めて移動しました。この移動には、木地師の先遣隊とも言える「先山」が調査方々捜しまわり、適地が見つかると家族や仲間を呼び移動しました。

近江の〔高島市朽木（旧朽木村）〕には、**昔から麻生谷と小入谷に二つの木地師集落があり**、この辺りで移動した木地師を総称して**麻生木地師**といい、昔から重きをなしました。

◆トレッキングの様子



南谷コース①



②



③



急坂を上がる



シチクレ峠



高島トレイルに出る



眺望



百里ヶ岳山頂はすぐ
すばらしいブナ原生林に行く



百里ヶ岳山頂 一等三角点



ブナ原生林を楽しみながら木地山峠へ



木地山峠



沢の音や風・木漏れ日を感じながら



注意してね①



②



無事下山：お疲れ様